

今回のテーマ

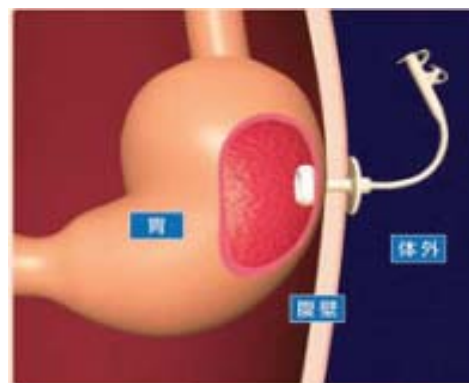
胃ろうについて



胃ろう(PEG)とは、内視鏡を使って「おなかに小さな口」を造る手術のことです。PEG(ペグ)とは、Percutaneous Endoscopic Gastrostomy の頭文字をとったもので「経皮内視鏡的胃ろう造設術」といいます。造られたおなかの口を「胃ろう」といい、取り付けられた器具を「胃ろうカテーテル」といいます。口から食事の摂れない方や、食べてもむせ込んで肺炎などを起こしやすい方に直接胃に栄養を入れる方法です。

内視鏡的に行うため、おなかに 5~6mm 程度の傷がつくだけで、出血もほとんどなく、手術は 15 分程度で終わります。軽い麻酔の手術で行いますので苦痛は軽減されます。

体表から胃の内壁までの長さには個人差があります。そのためボタン型の胃ろうカテーテルは、シャフトの長さが小児用の短いものから肥満タイプ用の長いものまで用意されています。また栄養を通すチューブの太さ(直径)も太いものから細いものまで各種あります。



『胃ろうカテーテル』

NPO法人PDN HPより引用

<知っておきたい 胃ろうの特徴>

- ・胃ろうを造っても口から食べられないわけではありません。経鼻チューブ等と比べ、鼻やのどの不快感・苦痛がなく食べるリハビリに適しています。
- ・経鼻チューブよりも顔つきが良くなり、患者様の苦痛が軽減されます。
- ・お風呂に入ることもできます。清潔に保つことが大切です。
- ・栄養摂取のスピードが調節できます。病状によって異なりますが、通常は 1 時間当たり 200cc 程度のスピードで注入します。逆流の強い患者様にはゆっくり注入した方が良い場合もあります。
- ・約 4 か月から半年に一回、定期的に交換を行います。
- ・胃ろうの操作手技を習得していただくことで在宅介護も可能です。
- ・口から十分に栄養が摂れるようになれば、胃ろうは不要になるため除去できます。胃の粘膜は約 3 時間程度で修復され、おなかの傷もほとんど目立たなくなります。
- ・胃に穴をあけるため合併症の可能性もあります。具体的には、創部からの感染や出血、誤嚥性肺炎、栄養剤の漏れ、嘔吐、胃潰瘍、通過障害などが挙げられます。



* 栄養をとることは病気の回復や体力・免疫力の維持のためにはなくてはならないものです。患者様の身体状況等を考慮しつつ、個々に適した栄養摂取方法を選択することが重要です。